

犬の草紙

末廿三廿四篇

Gōkan: (No. 015)
Inu no Sōshi.
Part. 4. Book 23-30.

~ 13
3667
15



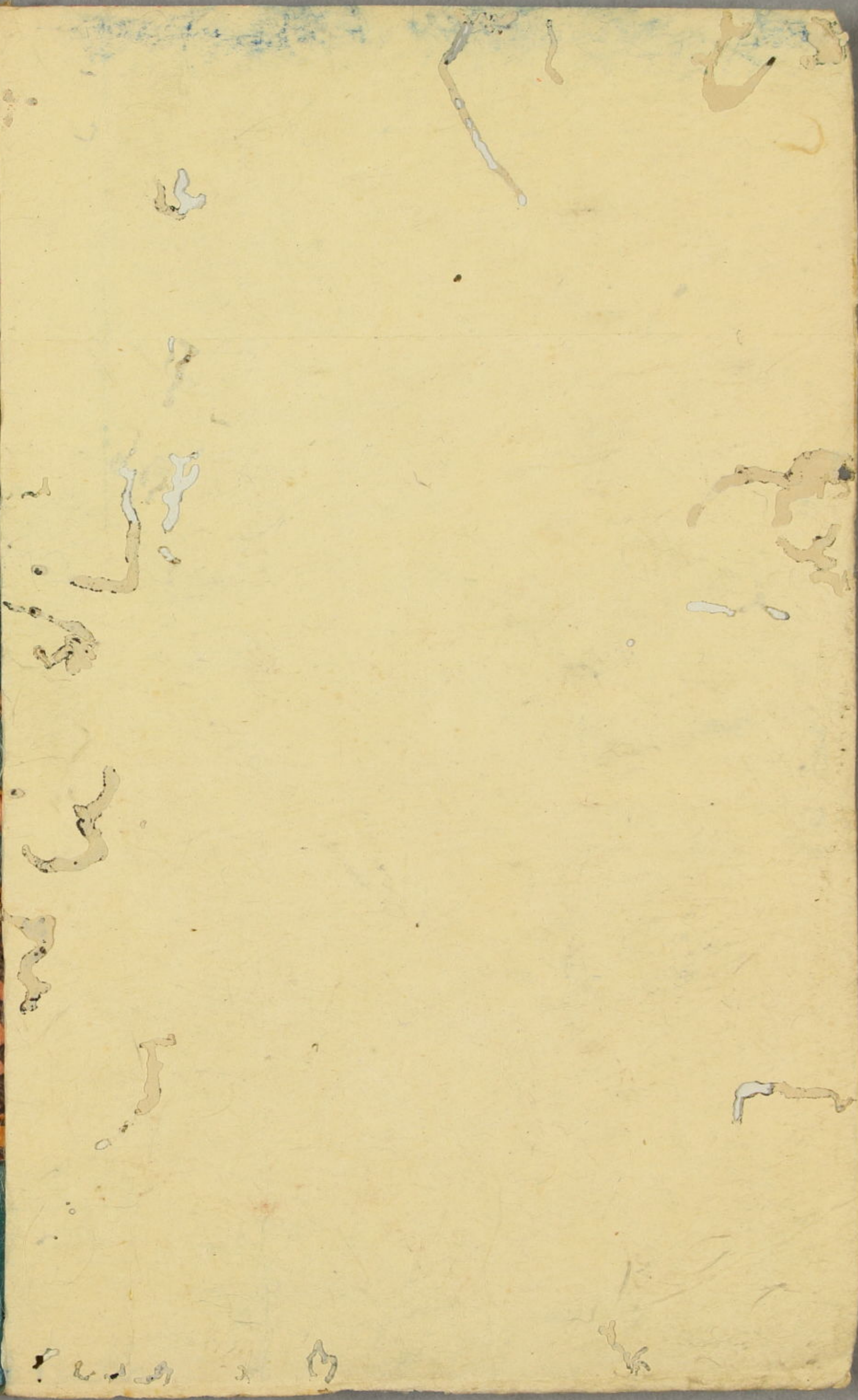


仙果鈔錄

八天傳大草紙

廿三編上

篤喜版



門 13
號 3667
卷 15

果釋
豐國
虫



一

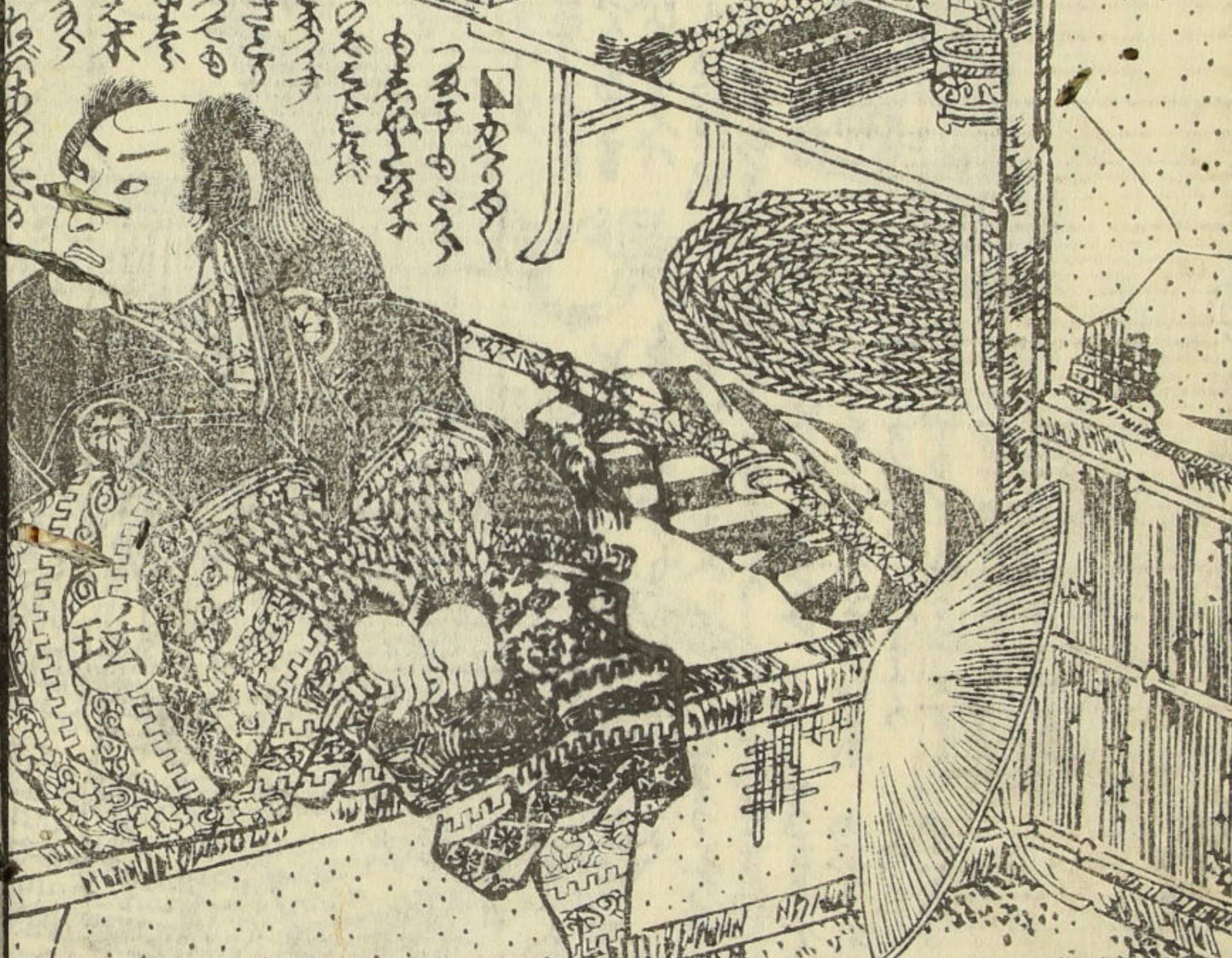


原本中此下冊自太郎故實物語
血よせの證の外種々の論并あれと靴
さし履を依りけるけれハ皆者きその中ハ
三人張の子の説もハ男ハ長三郎の妻
き物より其因と模マレ序文ハ
イへりぬ壬子春也

三直氏大ニ

あつたての女はあつたて
とあつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて

あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて



あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて

あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて



あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて
あつたての女はあつたて

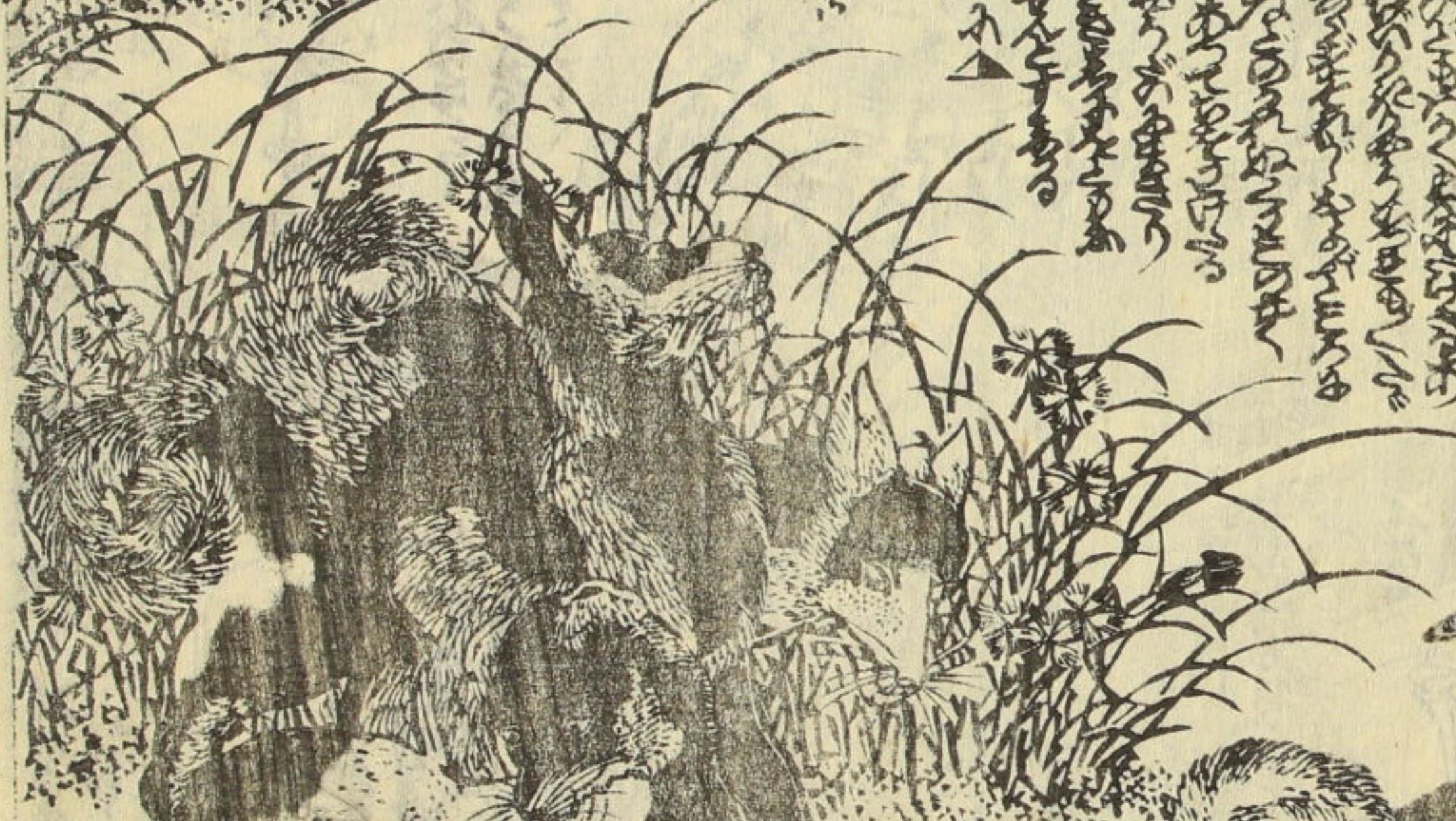
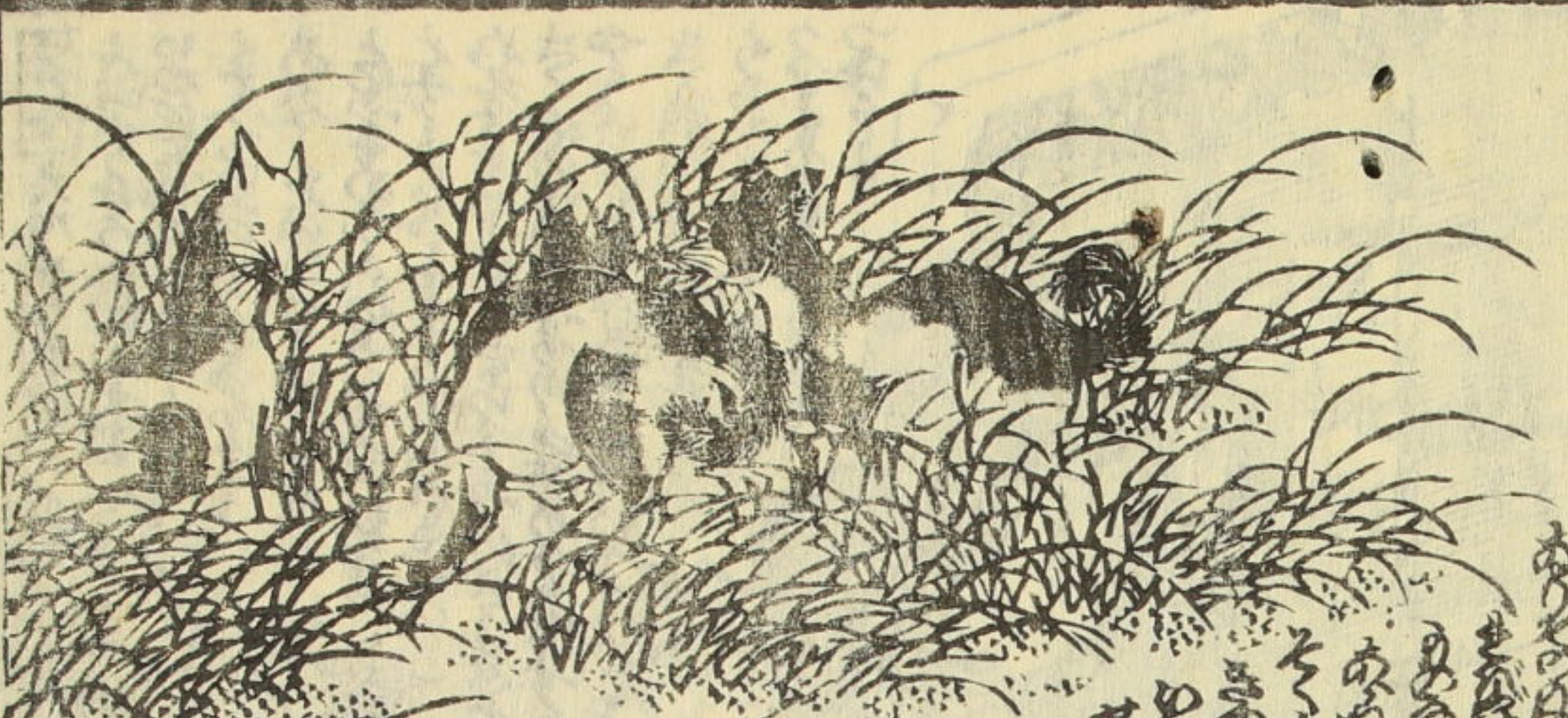
此物性味甘平... 治一切瘡毒... 凡患此症者... 宜早服之... 功效如神... 誠為濟世之良藥也...



此物性味甘平... 治一切瘡毒... 凡患此症者... 宜早服之... 功效如神... 誠為濟世之良藥也...



此物性味甘平... 治一切瘡毒... 凡患此症者... 宜早服之... 功效如神... 誠為濟世之良藥也...



此物性味甘平... 治一切瘡毒... 凡患此症者... 宜早服之... 功效如神... 誠為濟世之良藥也...



仙果鈔録 國貞画

家寶母散 せんせんまご 中橋
 南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製
 社名東田さんく天中たしおんまごせんせんまご一自西大もく年東堂せんせんまご此店を伝ふる身ゆひ日所
 仙果鈔録 國貞画

御免麻積湯 せんせんのゆき
せんせんのゆき

御免麻積湯 せんせんのゆき
 中橋南傳馬町二丁目
 千葉堂孝輔製
 為屋吉藏

御用藥所 信州上田東山堂製
 毎るん せんせんのゆき 一袋
 せりい せんせんのゆき 四十八個
 せりい せんせんのゆき 御業 白美牡丹 一袋
 せりい せんせんのゆき 同鳥暗乃家士 一袋
 せりい せんせんのゆき せりい 同鳥暗乃家士 一袋
 せりい せんせんのゆき せりい 同鳥暗乃家士 一袋

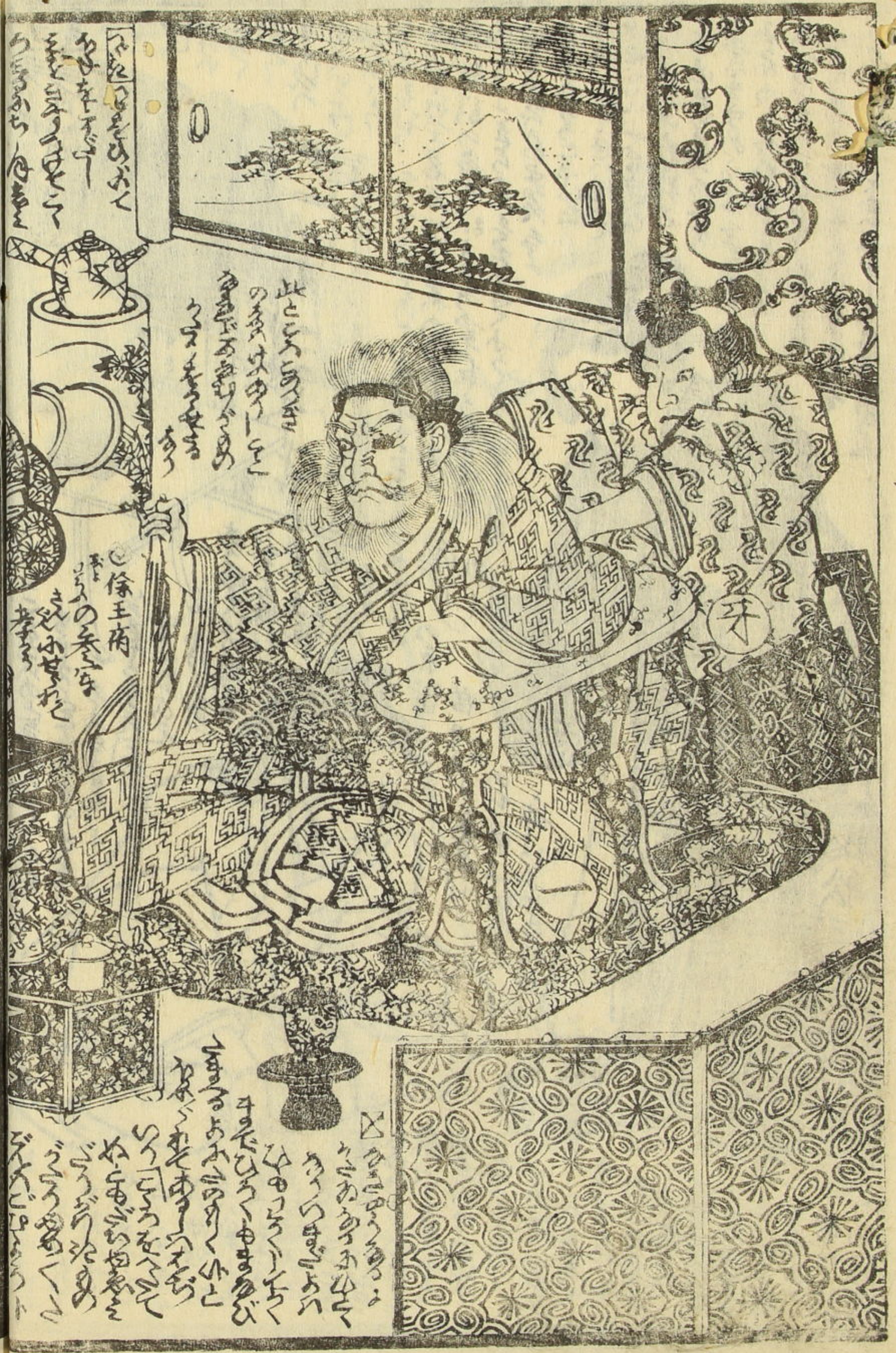


外題 西王母

廿三編下

西王母圖





あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

此のついでに
あまのついでに
あまのついでに

徐王南
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに



あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

Handwritten text in vertical columns, likely a chapter introduction or commentary.

Handwritten text in vertical columns, likely a chapter introduction or commentary.



Handwritten text in vertical columns, likely a chapter introduction or commentary.

Handwritten text in vertical columns, likely a chapter introduction or commentary.

Small rectangular text box at the bottom left of the page.



Handwritten text in kuzushiji script, located in the upper left quadrant of the page. The text is arranged in vertical columns and appears to be a continuation of the narrative or a commentary on the scene.

Handwritten text in kuzushiji script, located in the lower left quadrant of the page. This section includes a prominent circular seal or stamp, possibly indicating ownership or a specific chapter marker.

Handwritten text in kuzushiji script, located in the upper right quadrant of the page. The text is densely packed and follows the contours of the figures and the scene.

Handwritten text in kuzushiji script, located in the lower right quadrant of the page. This section contains additional narrative details and possibly a concluding remark.

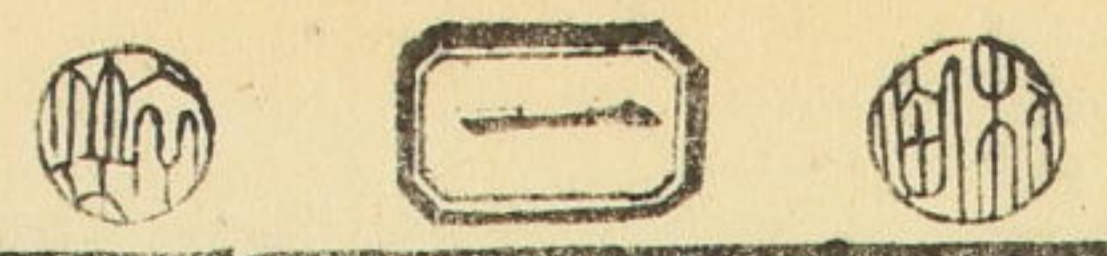
Vertical text on the right edge of the page, likely serving as a page number or a chapter indicator.

Vertical text on the right edge of the page, likely serving as a page number or a chapter indicator.



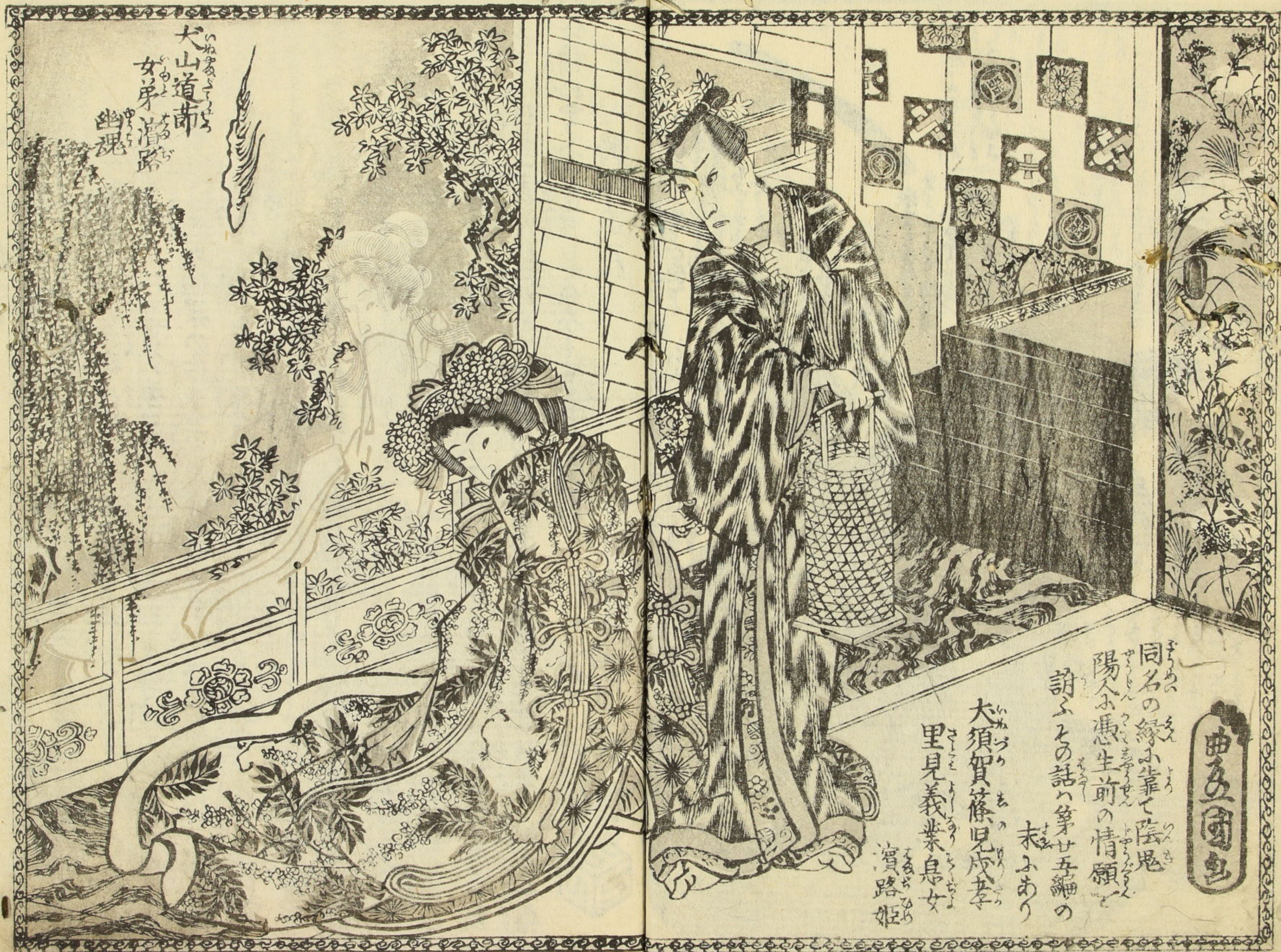
八犬傳太之助

廿四編上



仙果祇
 國具虫
 上之卷
 紅英堂梓

雪梅
 茅潭
 大之及帝
 廿四編



大山道節
女弟滑路
幽魂

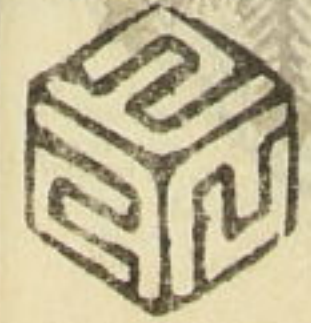
曲名(團包)

同名の縁小靠て陰鬼
陽人憑生前の情願
謝ふその話の第廿五編の
末ふあり
大須賀藤見成孝
里見義業息女
滑路姫

狗廿四編附言又々々も同く録言かきと鈔録物程張合のるれ著作の有へるは
 其さ入々張合て書のも豊のれ御代の餘澤具繪草紙繁昌のるるらりひる処と
 思へ心肝小徹と辱し扱も世界の曠けき原傳を看ぬ童稚達ハ鈔録と作との
 差別もれどら此狗も仙果の作とて万思錯のる實ハ無実の濡衣をれ濡手で
 粟の濡中と口を濡す助とる其辱さる又抑戯作者も文人の端材先輩の編述と
 扱書とて作名記す餘り小拙此學者の真似りて耻と止と今も猶竟見せらる
 明友もれど作のるるる古書も折々識とすれ學者の真似るるも出来ず若戯
 作者も一々學者も其度申山の山猫とる一具人間小交り愚人小尊敬せらるるも
 遂ふの尾を出し身ても戯ひ物笑の種とる一唯猫の猫の境界を樂と牡丹小眠り
 蝶小戯と戯作者の戯作者の本意と失を綴聊化とるも晒の手拭小厚顔皮衣
 裏夏も夜並小玉の汗絞の浴衣と猫踊他の丹誠の膏とるても番教書て問屋の催
 促請ぬらふと出情のせるや一きののみと
 癸丑正月
 笠亭仙果

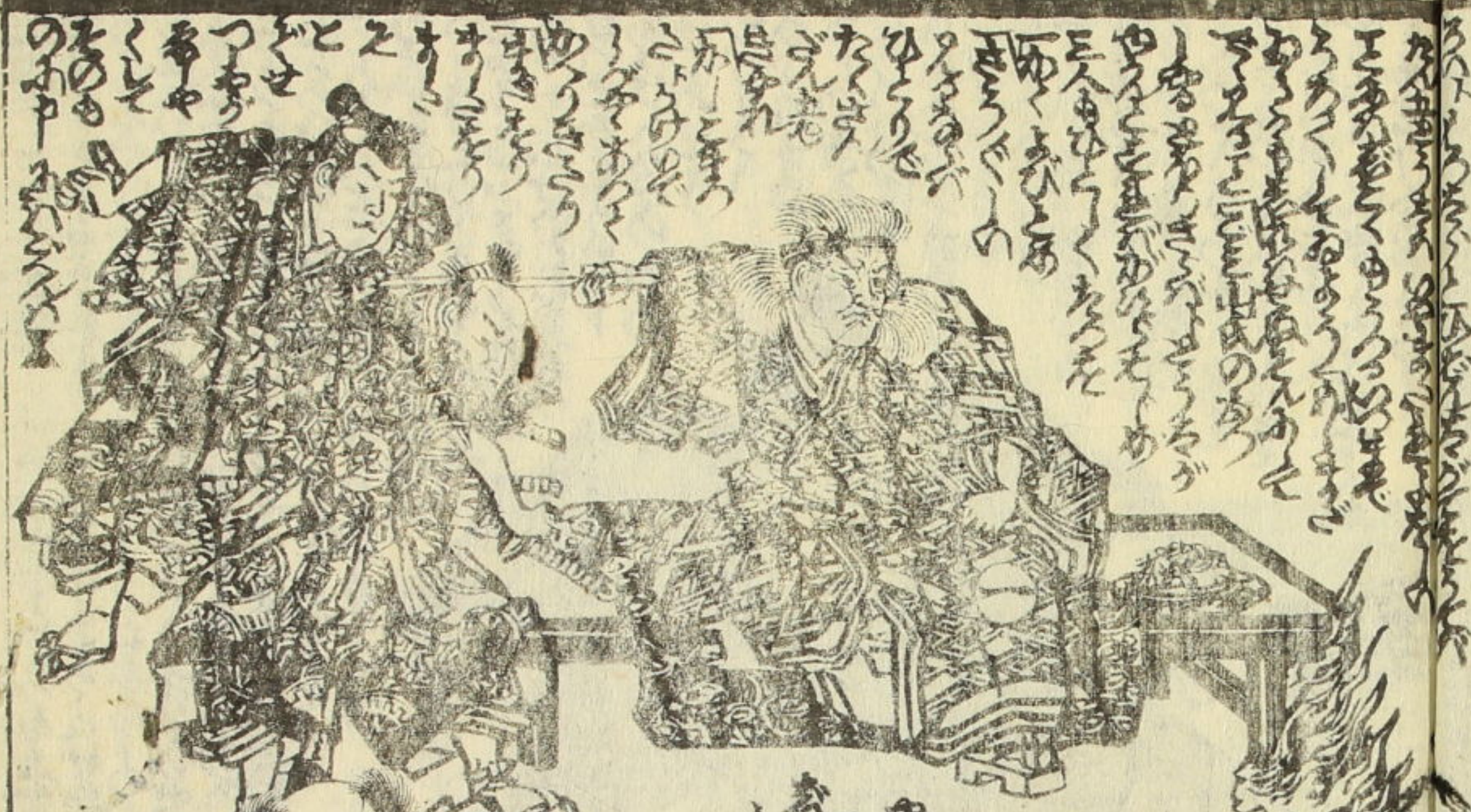
癸丑正月

笠亭仙果

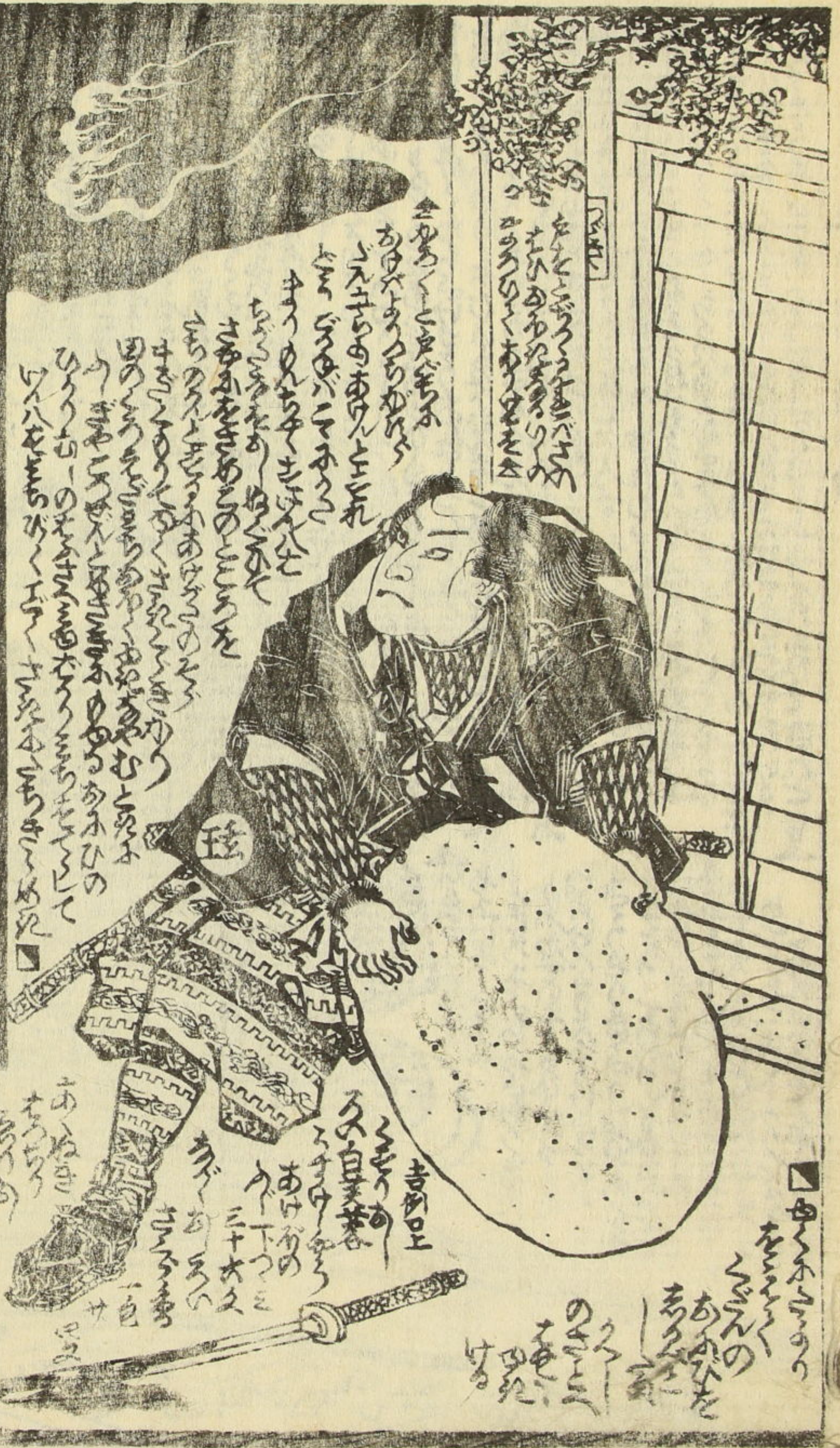


大の草紙廿四

三



Extensive handwritten Japanese text in kuzushiji script, interspersed with the illustrations. The text is arranged in vertical columns, following the layout of the drawings.



一壽齋國貞画笠亭仙果鈔録

家實母散

此方其のさへいさ中不 南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製

中橋

御免痲積湯

せんきののゆ系

御用薬所 信州上田東山堂製

せんきののゆ系 一匁 四十八匁 一匁 九十四匁

大日本國郡輿地全圖

大奉書 六枚綴

府郷御江戸繪圖

同前 六枚綴

はねのり せんきのの茶 取次所

繪草紙問屋

萬屋吉藏

江戸南橋の町一丁目



國貞画圖

仙果鈔録

廿四編下

弁題曲豆團扇

萬吉板



嘉永六癸丑新春新鑄目錄

大の草紙廿四
此の草紙は、嘉永六年癸丑の新春に新鑄されたものである。内容は、大の草紙の巻目であり、各巻の題名と編数、作者が記載されている。また、巻末には「仙果録」と題した挿絵が描かれている。この挿絵は、仙人の姿をとり、自然の風景と調和したスタイルで描かれている。背景には松や竹などの植物が描かれ、仙人は静かに座す姿が描かれている。全体的に、この草紙は、嘉永六年の新春に新鑄されたものであることが、巻頭の題名から読み取れる。

大晦日曙草紙 十九編 京山作 芳綱画

大傳犬の紙 七編 仙果録 豊国画 三編 國貞画

御贄美少年始 八編 九編 國綱画

俠客傳仙摸略記 九編 西馬譯 國輝画 十編 國綱画

鳥巡浪間朝景 五編 種夏譯 六編 國輝画

文正 壺産古今草紙合 九編 仙果作 十編 國輝画



連理翅山雞奇縁 三編 西馬譯 四編 芳綱画

松浦船水棹婦言 初 仙果録 二 國芳画

八重撫子果物語 初 仙果録 二 國貞画 三 國貞画

花叢寫梅雅物語 初 西馬譯 二 國輝画 三 國輝画

春柳錦花四 五編 一九録 大尾 芳綱画

東都南傳馬町二丁目 地本 錦繪 問屋 蔦屋吉藏板

松
氣
長
改



